

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	○日常的な外出支援:各自の体調に合わせ、ウォーキングの時間を設け、下肢筋力の低下予防につとめ、外の新鮮な空気を吸い、季節の移り変わりを楽しめるよう配慮し、ご家族にもご協力を頂いているが、コロナ禍以降、いまだ消えぬ感染のリスク、ご入居者の重度化により歩行や車の乗り降りが困難となり、付き添うご家族も高齢化などで、外出の機会が減っている	○様々な人の力を借り、様々な方法を使って少しずつ外出を楽しめる機会を増やしていく	○外出ボランティアの募集を行い、車の乗降などに不安があるご入居者の場合により多くの人に関わってもらえる機会を作る。また、ご入居者と共に出かけやすい場所についてリサーチをし、マップを作ってお家族などにも情報を提供する	12ヶ月
2	1	○理念の共有と実践:日々の申し送りや職員全体会議などを通し、ご入居者の力を引き出していくことの重要性、具体的な方法について職員と共有しているが、こうしたことを職員自身が実習生などに伝えていけるような力をつけていくことが重要だと考えている	○職員が、当ホームの理念について他の人に述べ、具体的な実践の様子の例を自分の言葉で語ることが出来る	○職員会議やグループホーム部会、事例検討会といった場で、職員が自ら話す機会に参加し、せせらぎの理念やそれをもとにした実践を語る機会を作る	12ヶ月
3	4	○運営推進会議を活かした取り組み:せせらぎの日々の様子を動画や写真を通じて会議出席メンバーにお伝えし、フィードバックを頂いてきたが、コロナ禍以降、会議を開くことが難しく、語らいの時間が減少した	○感染拡大の状況を見ながら運営推進会議を開いたり、せせらぎの様子を知ってもらう工夫をする	○感染が収まっている時期に会議を開き、また、会議を開けない時にはせせらぎのフェイスブックを会議メンバーに紹介し、会議に出席しなくても様子を知ってもらい、フィードバックを頂ける環境を作る	12ヶ月
4	13	○身体拘束をしないケアの実践:地域の人にも身体拘束をしないケアに向けた会議メンバーに入ってもらい、せせらぎのケアのありようを振り返り、職員に伝えているが、これらをご家族・後見人様にも積極的に伝えていく必要がある	○身体拘束をしないケアの実践についてご家族、後見人様に情報提供する	○せせらぎ便り、フェイスブック、ご家族の面会時などにお伝えしていく	12ヶ月
5	5	○市町村との連携:新型コロナウイルス流行などについての感染対策など折に触れて行政の窓口担当の方に相談にのって頂いているが、コロナがひと段落している間にせせらぎの様子も見ていただき、アドバイスを頂く機会を作っていく必要を感じている	○市町村の担当の方や地域包括支援センターのご担当者にせせらぎに訪れて頂き、実際のケアを見て頂く機会を作る	○地域運営推進会議やホームの勉強会開催時に市町村のご担当者に参加してもらい機会を作り、せせらぎについて知って頂く	12ヶ月